

日 付：2024 年 6 月 25 日

研修名：第 68 回 JR 広島病院オープンカンファレンス

タイトル：大腸癌の外科治療 Update2024 ～手術から薬物療法まで～

氏 名：住谷 大輔

所 属：JR 広島病院 消化器外科

座 長：田妻 進 病院長

大腸癌は男女合わせて罹患数第一位の疾患です。比較的治癒しやすい癌ですので検診による早期発見、早期治療が重要です。治療は手術、放射線治療、薬物療法を部位・進行度に合わせて組み合わせますが、ほとんどのステージで外科手術が必要となります。

手術における重要度には根治性・安全性・機能温存・低侵襲性・整容性が挙げられ、最適な手術術式（アプローチ法：開腹手術、腹腔鏡手術、ロボット手術など）を選択します。開腹手術は直接病変や臓器を触って操作可能で現在でも不可欠な術式です。腹腔鏡手術は低侵襲性に加え、拡大視による繊細な手術が可能です。ただし手技が難しいため上達までに多くの経験が必要で、術者の技量に治療成績が左右される可能性があります。日本内視鏡外科学会の技術認定取得医であれば安心して手術が受けられる一つの指標になると考えられます。JR 広島病院での大腸癌は全ての手術に技術認定取得医が参加しています。ロボット手術は腹腔鏡手術をより進化させたものです。近年、安全性・根治性においても良好な治療成績が報告され、今後更に主流となることが予想されます。JR 広島病院では 2024.6 月に Da Vinci Xi が導入され、泌尿器科、消化器外科でロボット手術を順次開始予定です。

手術の進歩は著しいですが、癌治療では薬物療法も必要です。大腸癌ではステージ 3 とステージ 2 の一部で術後補助化学療法を行います。ステージ 4 や再発例でも薬物療法を行うことが多くなります。遺伝子検査（RAS、BRAF、MSI など）を行いレジメン決定していきます。

癌治療（とくに手術）では根治性・安全性・機能温存・低侵襲性が求められ、これらを両立させて癌を上手に治すことが重要です。今後も外科手術はさらに進歩して、さらなる治療成績の向上が期待できます。大腸癌でお困りになった場合は JR 広島病院 消化器外科にぜひご相談してください。